経済学部・学府の対面／ハイフレックス授業における安全対策（学生、TA、教職員共通）

2022年5月19日

九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

1. リスク管理の考え方

ウィズコロナ型の授業運営を基本方針とします。そのため、起こり得るリスク水準を想定し、受容不能なリスクの回避を目指します。

新型コロナウイルス感染症について経済学部・学府が想定するリスク水準は、下記の通り。

リスク水準	方針
1. 学生ないし教員に軽症者／無症状者が発生	受容（できる限り低減）
2. 感染クラスターが発生（軽症、重症問わず）	回避
3. 学生ないし教職員およびその家族*に重症者が発生	回避

*授業での感染が原因となって学生・教職員の家族が重症化するケース

上記を踏まえ、対面／ハイフレックス授業では下記の措置を講じます。

- 対面受講者の人数は教室の収容定員の2/3以下とする。
- 新型コロナウイルス感染の予防措置を十分に取る。（ただし、感染自体は発生し得る）
- 感染発生後に感染を広げないための対応を強化する。
- 本人や家族に重症化リスクがある学生はオンラインで受講する。

1. リスク管理の考え方

対面／ハイフレックス授業安全策

段階	安全策	学生	教員	学務課	頁
予防対策	(1) リスクを教室に持ち込まない	• **体調不良、濃厚接触の疑い→1週間オンライン受講** • 重症化リスクがある学生→オンライン受講 • 会食等の講義外での行動：九大行動指針を遵守	• **体調不良、濃厚接触の疑い→1週間オンライン授業** • 重症化リスクがある教員→オンライン授業 • 会食等の講義外での行動：九大行動指針を遵守		4
	(2) 教室の中でリスクを広げない	• マスク着用、手指消毒など • 静かな会話、至近距離での会話の回避	• 学生間距離の確保 • 換気の徹底		5
感染者発生時の対応	(1) 感染確認時の速やかな報告	• 速やかに学務課へ連絡	• 速やかに学務課へ連絡	• 担当教員と情報共有	6
	(2) **直近2週間で20名**以上の感染者→全面オンライン授業へ移行	• 学務課から連絡 • **全科目を2週間全面オンライン化** • 3週目から対面／ハイフレックス授業を再開	• 学務課から連絡 • **全科目を2週間全面オンライン化** • 3週目から対面／ハイフレックス授業を再開	• 研究院長と対策を協議 • 学生、教員へ連絡	7-8

2. 予防対策（学生、教員、TA共通）

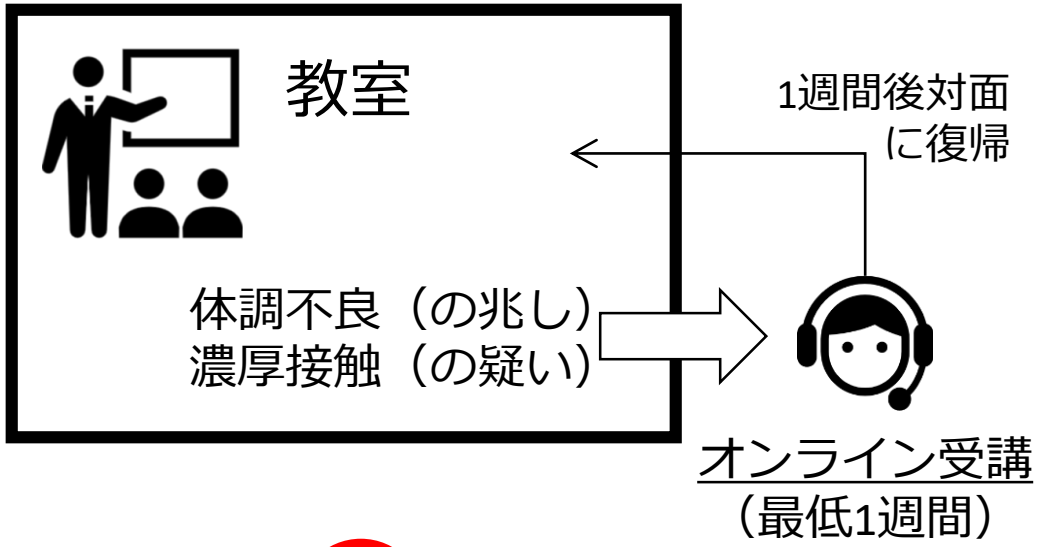
(1) 教室にリスクを持ち込まない

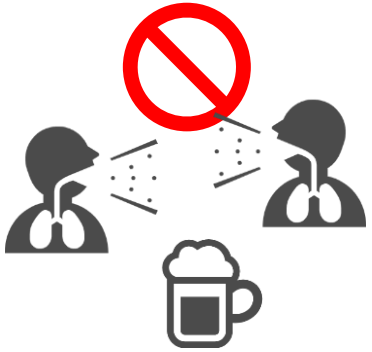
- **体調不良（の兆候）や濃厚接触（の疑い）のある場合、<u>他者の感染を防ぐために</u>、迷うことなくオンラインで受講**してください。
  - ➢ 対面受講は、体調が回復するまで十分待ってから。
  - ➢ 濃厚接触の場合は、最終接触日を0日目とし、対面受講は8日目から（7日間待機）。
- 基礎疾患があるなど、本人のみならず家族も重症化リスクがある場合にも、オンライン受講を選択してください。
- 会食等の講義外での行動については、九州大学の行動指針を遵守してください。
  - ➢ マスクを外した状態での近距離での会話や食事はしない。
  - ➢ 感染防止認証店などで上限2時間とし、同一テーブル4人まで、テーブル間の移動不可など。
  - ➢ 詳しくは、九州大学の行動指針を参照。

https://www.kyushu-u.ac.jp/f/47843/guidance_20220425_ja.pdf

<u>オンライン受講</u>

- 基礎疾患など重症化リスクのある学生
- 公共交通機関の利用に不安のある学生

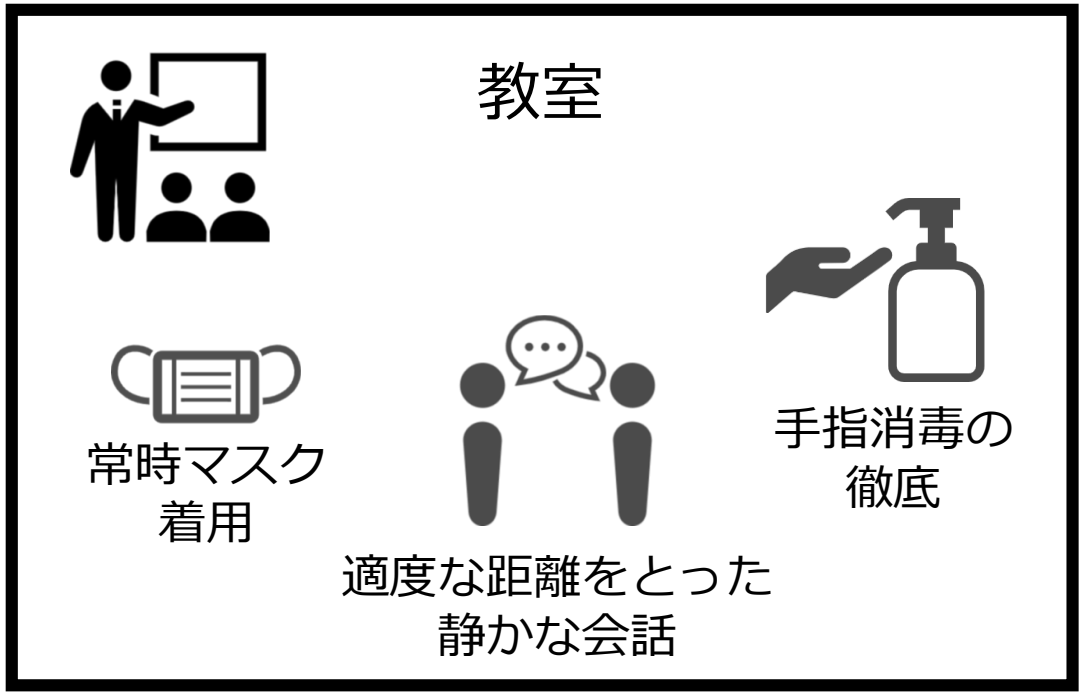


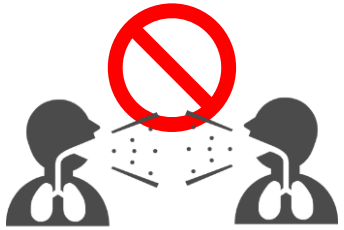


2. 予防対策（学生、教員、TA共通）

(2) 教室でリスクを広げない

- マスクの常時着用（不織布マスク推奨）、手指の消毒など基礎的な感染対策の徹底。
- 教室内でのディスカッションやグループワークは感染拡大のリスクを伴いますが、ゼミや演習科目では必須の要素（醍醐味）でもあります。
- そこで、感染を防ぐため、学生間で適度な距離を保って静かな会話を心掛けてください。





3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA、職員共通）

(1) 感染確認時の速やかな報告

- ウィルスが変異を続ける中、いつでも誰でも新型コロナに感染する可能性があります。
- 自身の感染が確認されたら、**経済学部HPに掲載している右記の専用フォーム**から、速やかに学務課に連絡してください（電話等も可）。
- 感染後の療養期間は、地元自治体の方針に従ってください。下記は、福岡市の場合。

https://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/coronataisaku/health/corona-ippanmuke.html

- ◘ 感染症状のある場合、以下の条件を両方とも満たした場合、療養が解除。
  - ✓ 発症日を0日として10日間が経過している。
  - ✓ 解熱剤を服用せずに熱が下がり、症状が軽快してから72時間を過ぎている。
- ◘ 感染後、ずっと無症状の場合、下記の条件で療養が解除。
  - ✓ 検査日を0日として7日間が経過し、8日目に入った。

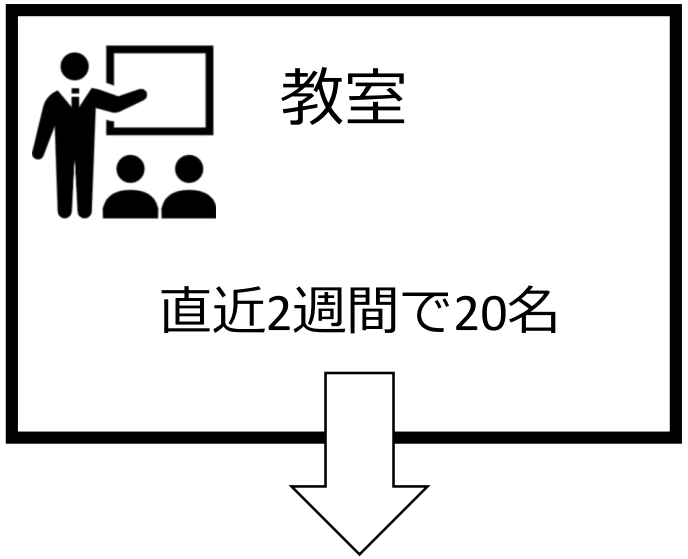
https://forms.office.com/r/Gr18ajDnAC

3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA共通）

(2) **直近の2週間で20名以上**の感染者が出た場合は、全科目を2週間、全面オンライン化

- 感染が確認された学生は、対面参加停止。
  - ➢ 対面授業への復帰は、療養期間が明けてから。
- 教員が感染・濃厚接触した場合は、当該授業をオンライン化。
  - ➢ その間、他の授業は対面／ハイフレックス継続。
  - ➢ 当該教員の療養期間の解除後、対面／ハイフレックス授業再開。
- **直近2週間の累計感染者**（学生、教員、TA）が**20名に達した場合**、サーキットブレーカーを発動し、翌日から全科目を**全面オンライン化**。

→次スライド参照。



2週間、全科目をオンライン化
3週目から対面／ハイフレックス再開

3. 感染者発生時の対応（学生、教員、TA共通）

直近の2週間（毎日ローリングしてカウント）

対面／ハイフレックス再開後は、感染者のカウントをリセット

	5/16	5/17	5/18	5/19	5/20	5/21	5/22	5/23	5/24	5/25	5/26	5/27	5/28	…	6/9	6/10	6/11	6/12
対面受講	感染1人目					感染10人目			感染15人目		感染20人目							
オンライン受講	本人のみ移行※					本人のみ移行※			本人のみ移行※ 警報		サーキットブレーカー	全科目オンライン化 2週間						

対面受講：対面／ハイフレックス講義は継続 → 対面再開

※感染後は、一定の療養期間を置いて対面授業に復帰。
　療養期間については、地元行政の指針に従ってください。

- 累積感染者数が15名に達した時点で警報を発令し、学生ポータル等で周知します。
- 累積感染者数が20名に達しない場合でも、授業等での感染クラスターの発生が確認されれば、全面オンラインに移行します。

4. 最後に

対面／ハイフレックス授業を安全に継続するため、
皆さんのご協力をお願いします。

- 基本的な感染対策の徹底。
- 体調不良時や濃厚接触時は、他者への感染を防ぐために、迷わずオンライン受講。あなたの学ぶ権利は保証します。
- 感染時は、経済学部HPに掲載している専用フォームから速やかに学務課に連絡。